

神奈川県保健医療計画 進捗状況評価調書

＜項目＞

第6章 患者の視点に立った質の高い医療体制の整備
第3節 公的病院等の役割

とりまとめ担当課：健康医療局保健医療部県立病院課

1 課題に対するこれまでの取組実績

| |
|--|
| (1) 公的病院等の役割 |
| → 県立病院が果たすべき医療機能の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・高度・専門医療等の提供、地域医療の支援を行い、県内医療水準の向上を図り、県民の健康の確保及び増進に寄与した。 ・各県立病院においても、引き続き特色を生かした医療の提供を行った。 |

2 参考指標の推移

| 取組 区分 | 指標 区分 | 指標名 | 単位 | 神奈川県 | | | | 出典等 |
|----------|----------|-----|----|-------|-------|-------|-------|-----|
| | | | | H25年度 | H26年度 | H27年度 | H28年度 | |
| | | | | | | | | |

3 課題ごとの進捗状況の評価

(1) 公的病院等の役割

| 評価 | A ・ (B) ・ C ・ D |
|------|--|
| 評価分析 | <p>【足柄上病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県西医療圏の中核的な総合医療機関として、救急医療等を確実に実施するとともに、地域包括ケア病床を増床し、在宅復帰支援に取り組んだ。また、地域包括ケアシステムを支える医療を提供するなど、高齢者総合医療に取り組んだ。 ・地域のニーズに応じていくため、助産師主導による安全な分娩を継続して実施している。 ・災害拠点病院及び神奈川DMA T指定病院として、災害に備えた体制の充実強化に努めている。 <p>【こども医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小児専門の総合病院として、アレルギー疾患への対応や難易度が高い手術を多く行うなど高度・専門医療を提供した。また、県内雄一の小児がん拠点病院として、積極的に小児がん患者を受け入れるとともに、小児がん医療従事者の育成、患者・家族への支援に取り組んだ。総合周産期母子医療 |

センターとして他の医療機関では診療が困難な患者を受け入れ、専門性の高い包括医療を提供した。さらに、NICU 病床の増床を含めた周産期棟改修工事に着手し、周産期救急体制及び小児三次救急体制の充実に向けて取り組んだ。

【精神医療センター】

- ・平成 26 年に新病院を開院し、精神科救急医療システムの基幹病院として救急患者を積極的に受け入れるとともに、思春期医療や難治なうつ病等を対象とするストレスケア医療、アルコールや薬物等への依存症医療、医療観察法医療といった専門的な医療の提供や薬物療法を実施するなど、神奈川県精神科医療の中心的役割を果たした。また、認知症対策として、平成 29 年 11 月に新たに「もの忘れ外来」を開設した。

【がんセンター】

- ・平成 25 年に新病院を開院し、都道府県がん診療連携拠点病院として、がん診療の質の向上を図りながら、手術、放射線治療、化学療法を柱として免疫療法や漢方治療など、様々な治療法を組み合わせた「集学的治療」に取り組んだ。

また、新たに患者支援の一環としてリハビリテーションセンターやアピアランスサポートセンターを開設し患者の QOL の向上を図ったほか、医療人材の育成や情報発信等を行い、神奈川県全体でのがん医療の質が向上するよう努めた。

- ・平成 27 年に重粒子線治療施設を整備し、治療を開始した。
- ・一方、平成 29 年には放射線治療科の医師退職問題により診療提供体制の維持に課題が生じ、診療の継続は果たされたが、一時的に患者受け入れを抑制するなどの影響が生じた。

【循環器呼吸器病センター】

- ・呼吸器と循環器疾患の専門医療機関として、肺がん治療を強化するため「肺がん包括診療センター」を設置するほか、国内有数の実績を有する間質性肺炎治療については、多職種で包括的呼吸リハビリテーションを積極的に取り入れるなど、質の高い医療を提供した。
- ・また、心筋梗塞等の急性期疾患ばかりでなく、慢性的疾患にも力を注ぐなど総合的な循環器医療を推進している。
- ・多剤耐性結核対策等、政策医療としての結核医療を確実に提供した。

【神奈川県総合リハビリテーションセンター】

- ・平成 27 年 1 月から再整備を行っており（福祉棟は平成 28 年 6 月、病院棟は平成 29 年 12 月供用開始）、平成 29 年 4 月に七沢リハビリテーション病院脳血管センターとの統合を実施したほか、早期社会復帰を目指したリハビリテーション医療及び福祉と連携した障害者医療への取組みを着実に実施した。

| | |
|------------------------------------|---|
| 評価理由 | 平成29年度において、県立病院機構がんセンターにおける放射線治療の診療体制の維持に課題が生じた。一方、各県立病院において、県立病院として果たすべき医療機能の充実のための各施設の整備等が比較的順調に進むなど、課題解決に向けて進捗している。 |
| 第7次計画 (H30～H35)で の取組の 方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・重粒子線治療について、管理運営体制・診療体制の再整備を図るとともに、医師確保のため、大学や関係機関等との連携に努める。 ・高度医療機器である手術支援ロボットを導入し、より高度な手術を行うことにより、がん治療のレベルアップを目指す。 ・こども医療センターで、NICUの増床計画を着実に推進していく。 ・神奈川リハビリテーション病院については、脊髄障害、脳血管障害等のリハビリテーション医療の拠点施設として、多職種チームによる早期社会復帰を目指したリハビリテーション医療及び福祉と連携した障害者医療を実施していく。 |

4 総合評価

| 評価 | 評価理由 |
|----------|--|
| B | 平成29年度において、県立病院機構がんセンターにおける放射線治療の診療体制の維持に課題が生じた。一方、各県立病院において、県立病院として果たすべき医療機能の充実のための各施設の整備等が比較的順調に進むなど、課題解決に向けて進捗している。 |